

# 2020年度 行橋市立長峽中学校 学力向上プラン

## ■視点1-②

### 《 中期目標・指標 》

知的好奇心や探究心をもって主体的に学習に取り組み、自分の思いや考えを表現する生徒の育成

### 《 成果指標 》

令和 4年度標準化得点:国語100 数学 98以上

### 《 短期目標・指標 》

主体的に学習に取り組み、自分の考えを表現できる生徒の育成

### 《 成果指標 》

令和 2年度標準化得点:国語 99 数学 97以上

## ■視点5

### 【家庭・関係機関との連携】

#### 〈取組(指標)〉

- 「長峽ノート」の活用についての研修会を実施し、家庭と連携した家庭学習の充実を図る
- 家庭学習の状況や提出の状況など学校・学年・学級通信や懇談会を通じて家庭との連携を密にする。

#### 〈成果(指標)〉

- ◆学習・生活アンケートの項目の回答
  - ・家庭学習1時間以上の生徒が7割を超える。
  - ・宿題以外に自分で考えた勉強に取り組む生徒が5割以上
  - ・自分で計画を立てて勉強している生徒が8割以上。

## ■視点2

### 【授業づくり】

#### 〈取組(指標)〉

- 授業の最初の5分間の「基礎学習」の取り組みを実施する。
- 毎時間「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業を実施する。
- 授業において学習した内容を活用して試す、記述の場を設定する。【単元1回以上】
- 評価問題として全国学力・学習状況調査の問題を教材として授業を行う。
- 「ペアやグループによる話し合い活動」を実施する。
- ICT 機器を効果的に活用した「問題解決学習」を取り入れた授業公開を全教職員が行う。

#### 〈成果(指標)〉

- ◆生徒による授業評価  
「授業が分かる」「めあて・まとめ・振り返りのある授業である」「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりすることができるようになった」【生ア:3.0 以上】
- ◆評価問題による評価  
定期考査における思考力を問う問題【正答率60%以上】

## ■視点4

### 【教員の意識・指導力の向上】

#### 〈取組(指標)〉

- 各定期考査に全国学力調査問題や高校入試問題から思考力を問う問題を1問は出題する。
- ICT を有効活用した思考力の育成をねらいとした公開授業を行う。  
(年1回以上:全員)
- 小中合同の研修会の実施(年3回)
- 小中連携委員会の開催。  
施(年6回)

#### 〈成果(指標)〉

- ◆出題した思考力を問う問題の正答率が6割を超える。
- ◆各委員会が来年度の取組を全小中で確認する。
- ◆アンケートにおける研修満足度を3.5以上にする。

## ■視点3

### 【学力基盤づくり】

#### 〈取組(指標)〉

- 長峽中校区「学習スタンダード」を通じて学習規律の徹底を図る。
- 長峽ノート活用し、家庭学習の定着を図る。
- 長峽タイムで「読み」「書き」「計算」等の基礎基本の定着。毎週テストを行い、不合格者には補充学習・再テストを実施

#### 〈成果(指標)〉

- ◆長峽ノートの提出を90%以上にする。家庭学習を30分に未満の生徒を1割以下
- ◆長峽タイムでの毎週のテストの合格者8割以上

## ■視点1-①

### 全国学力・学習状況調査及び生徒による授業評価から見た「課題」

標準化得点	国語		数学		・国語では「言語についての知識・理解・技能」が課題 ・数学では「数学的な見方・考え方」が課題
	R1	R2	R1	R2	
100			99		
質問紙調査	・「課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた」(全国比-30.1) ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」(全国比-14.4)				

### 要因(授業づくりやその他学校の学力向上の取組)

・基礎・基本が定着していない生徒に対する補充的な指導の検討 ・問題解決的な学習や自分の考えを発表する機会や互いの考えを出し合う活動を取り入れた授業改善を図る。 ・授業において「書く活動」を設定する。 ・各教科の指導法の工夫 (ICT 機器の利用等) を図る。 ・家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。
---